

発進！とっとり中部

～絆と自立、癒しと活力を育む圏域～

鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン

倉吉市と三朝町・湯梨浜町・琴浦町・北栄町は、圏域における定住の促進と持続可能な圏域社会の構築を目指すため、平成22年3月に「定住自立圏形成協定」を締結しました。

この度、この協定に基づき、「鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。



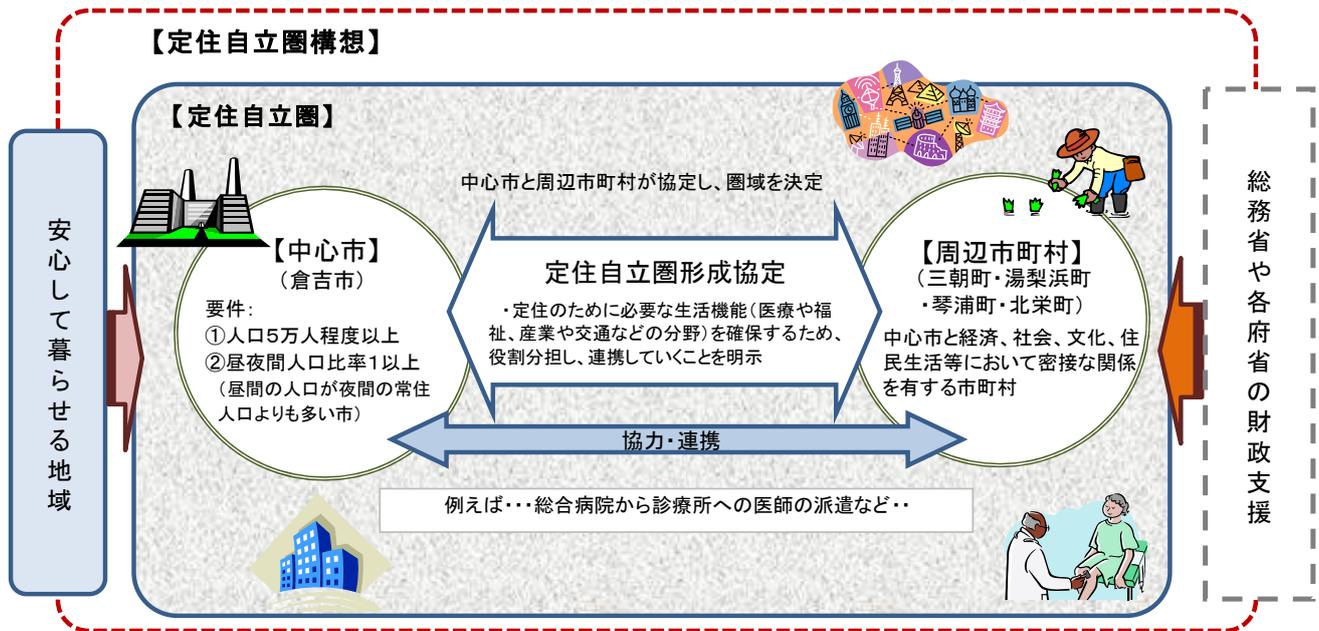
平成23年3月

鳥取県 倉吉市

「定住自立圏構想」とは

「定住自立圏構想」とは、平成 20 年 12 月に総務省が制定した「定住自立圏構想推進要綱」に基づく構想のことです。その内容は、圏域の中心的な役割を担う市（中心市）と、その周辺にある市町村（周辺市町村）が「定住自立圏」を形成し、お互いに役割分担・連携を行いながら、住民生活の向上や地域の活性化を図ります。その結果として、都市圏から地方圏への人口の流れを創り出すとともに、地方圏からの人口の流出を防ぐことにより、定住を促進するというものです。

■定住自立圏構想のイメージ

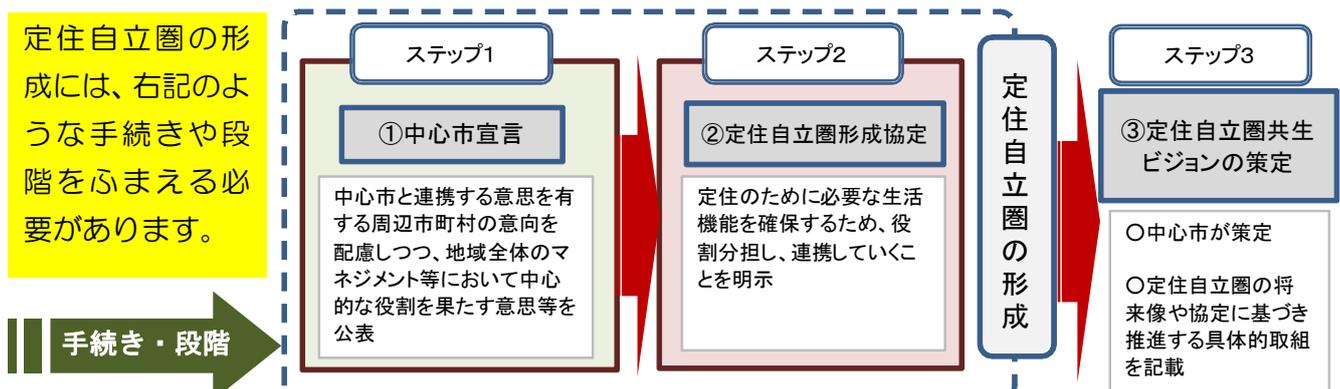


鳥取県中部定住自立圏におけるこれまでの経緯について

中部圏域においては、平成 21 年 3 月 9 日に倉吉市が「定住自立圏構想推進要綱」に基づく「中心市宣言」を行いました。それを受け、倉吉市を含む1市4町（三朝町・湯梨浜町・琴浦町・北栄町）が、検討・協議を行い、平成 22 年 3 月 31 日に「定住自立圏形成協定」の締結を行いました。

その後、倉吉市において、民間や地域の関係者で構成する「定住自立圏共生ビジョン懇談会」を開催し、その検討を経て、平成 23 年 3 月に「鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン」を策定しました。

■定住自立圏の形成に係る手続きの流れ



「鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン」の内容について

ビジョンの目的

定住自立圏共生ビジョンは、圏域における定住の促進と持続可能な圏域社会の構築を目指し、中長期的な観点から圏域の将来像やその実現のために必要な具体的な取組を示しています。

※また、このビジョンにおいて示す具体的な取組は、総務省をはじめ、国の各府省の支援を受けながら進めるものとなります。

定住自立圏の名称と構成市町

名称は、「鳥取県中部定住自立圏」です。構成市町は、倉吉市を中心市とし、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町の1市4町となっています。



【ビジョンの構成】

第1章 はじめに
 ○ビジョンの目的
 ○定住自立圏の名称及び構成市町
 ○ビジョンの期間
 ○ビジョンの進行管理

第2章 圏域の概況
 ○地勢、自然環境、人口・世帯などの概況
 ○医療、福祉、教育、産業振興などの概況

第3章 圏域の課題と可能性
 ○圏域の課題
 ○圏域の可能性

第4章 圏域の将来像
 ○圏域の将来像
 ○圏域づくりの基本方針

第5章 定住自立圏形成協定に基づく具体的な取組
 ○生活機能の強化
 ○結びつきやネットワークの強化
 ○圏域マネジメント能力の強化

第6章 今後の検討課題 など



ビジョンの期間と進捗管理

このビジョンの計画期間は、平成22年度から平成26年度までの5年間です。また、策定後、定期的に具体的な取組の進捗状況の把握、評価・検討を行い、必要に応じて見直しを行います。

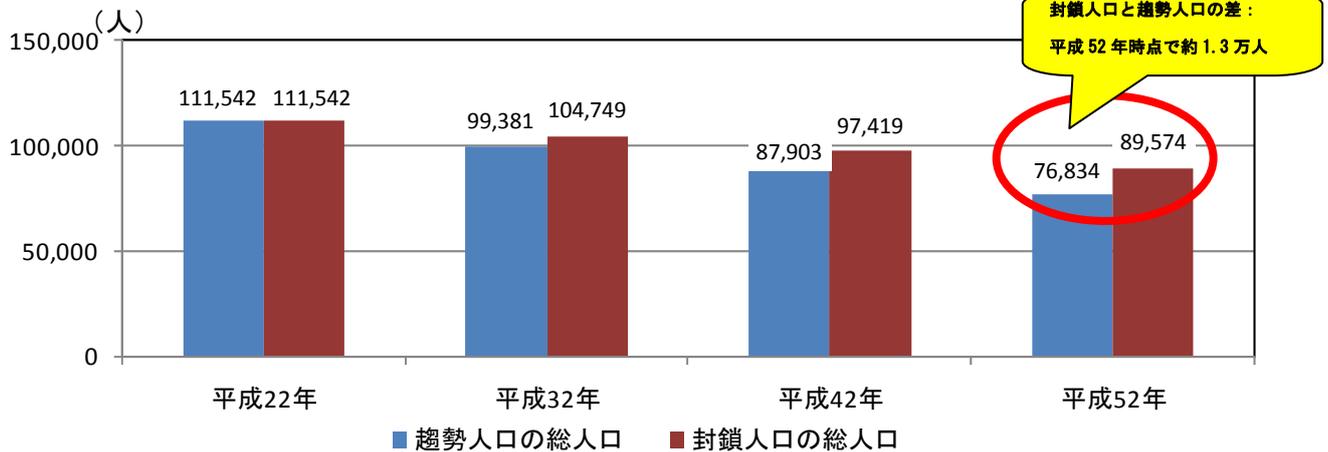
■ビジョンの年間サイクル

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
ビジョンの策定・修正 (実施主体: 倉吉市)	→	→ 必要に応じて見直し・改善			
具体的な取組の実施 (実施主体: 1市4町)	→	→ 必要に応じて改善			
ビジョンの評価・検討 (実施主体: 懇談会)	→	→ 必要に応じて評価・検討			

定住自立圏の人口について

将来人口を推計してみると、今後も、中部圏域の人口は減少していく傾向であると推測されます。また、これまでの人口推移がこのまま続くと仮定して推計した人口（^{すうせい}趨勢人口）と、転出・転入等の社会移動が無いと仮定して推計した人口（封鎖人口）を比較すると、30年後には約1.3万人の差が発生するものと試算され、人口の流出をいかに抑制していくかが重要となります。

■将来人口の推計（「趨勢人口」と「封鎖人口」における人口規模の差）



※趨勢人口…これまでの人口推移が今後も続くと仮定して推計した人口

※封鎖人口…人口推移のなかで、社会移動（転入や転出）が全く無いものと仮定して推計した人口

※上記の推計は、平成17年～平成22年の各市町の住民基本台帳人口を基に推計しています。

中部圏域の課題や可能性について

圏域全体の課題 (改善すべき点)

●全体

【人口】 少子高齢化の進行、人口減少社会の到来 等

●暮らしを支える生活分野に関する課題

【医療】 救急医療体制や地域医療体制の充実 等

【福祉】 各種の福祉サービス・支援の充実 等

【教育】 家庭教育の問題、体育施設の維持・利活用 等

●産業分野に関する課題

【産業】 農業人口の減少、地場産業の衰退、市街地の空洞化 等

●賑わいやネットワーク分野に関する課題

【地産地消】 圏内での生産・消費体制の確保 等

【公共交通】 交通網の連結・連携、高齢者の移動手段の確保 等

【交流】 移住へのサポートの充実、受け入れる住民意識の向上 等

【情報】 圏域内の情報の共有化 等

●地域づくりを担う人材育成分野に関する課題

【人材の確保・育成】 高度化する住民ニーズへの対応 等

【ボランティア・NPO等】 団体間の連携や情報共有 等

【まちづくり】 新しい公共の担い手づくり 等

圏域の可能性 (良い点・魅力)

【1】美しい自然環境が整った魅力的かつ豊富な地域資源が存在する圏域



【2】安全・安心を感じられる質の高い生活支援・サポート基盤がある圏域



【3】圏域を支える産業基盤と特色ある産業構造をもった圏域



【4】人とモノの交流を生み出すツーリズム要素の多い圏域



【5】県の中央部に立地する利便性を活かせる圏域



【6】「中部はひとつ」という連携意識の高い圏域

中部圏域は、美しい自然環境、農畜産物をはじめとする彩り豊かな資源が豊富な地域であり、今後も発展しうる可能性を多分に有した圏域です。また、この圏域は、古くから文化・伝統面や経済面において深い繋がりがあり、人と人とを結び付ける絆を大切にしている風土が培われている圏域です。

中部のこのような絆をさらに強めることによって、1市4町の機能を有機的に連携させ、圏域が持つ資源や環境を最大限に活かし、圏域全体、そして地域の一人ひとりが「自立」した社会の構築を目指します。また、圏域の特性でもある“癒し”の要素を伸ばしつつ、新たな“活力”を育み、豊かな生活価値（＝暮らし良さ、魅力等）を高め、山陰地域の要所としてなくてはならない圏域づくりを進めます。

そうした思いを込め、以下のような将来像を設定しました。

発進！ とっとり中部

～ 絆と自立、癒しと活力を育む圏域 ～

込めた思い・・・

「発進」・・・

未来へ向かって中部圏域の皆で「さあ、やろう」という姿勢、「Let's Go (レッツゴー)」・「Start (スタート)」の声、「より良い圏域づくりへの挑戦（共に汗を流していこう）」という意味。魅力や情報の“発信”、新しいことを始めていく“発・新”も含む。

「とっとり中部」・・・

1市4町の圏域、“中部はひとつ”を表す。



「絆」・・・

1市4町の連携、行政と地域の協働、人と人との支え合い、圏域内外の交流、中部圏域の絆を大切にしているあたたかな風土などの意味。

「自立」・・・

中部にしかないアイデンティティや地域資源を活かし、現状の厳しい社会情勢の中でも、圏域全体の経済・生活の向上を図ることの宣言・決意。また、定住促進により持続可能な圏域社会の構築という定住自立圏構想そのものの目的も示す。



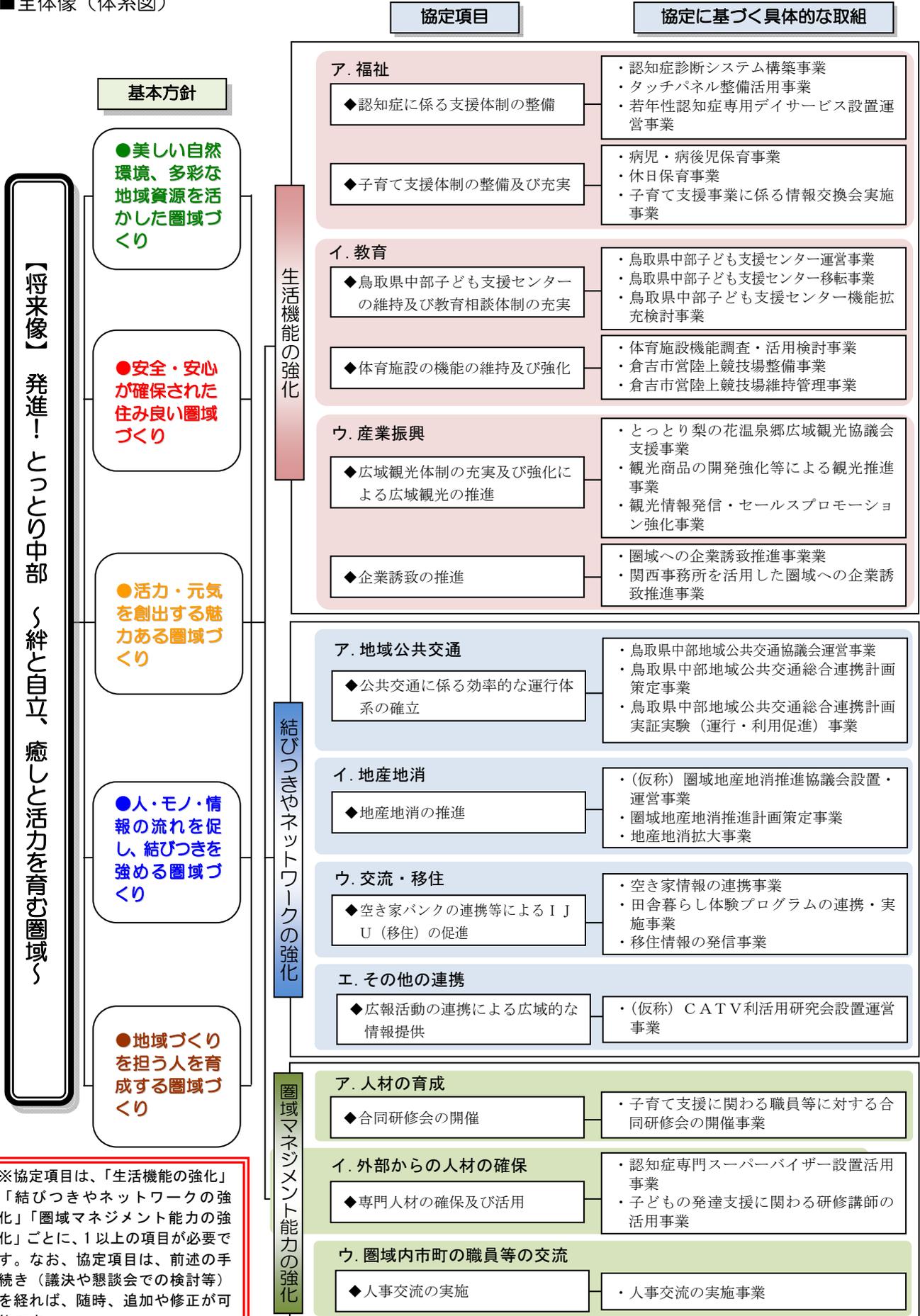
「癒しと活力」・・・

“癒し”（＝医療・福祉などの生活機能、歴史・文化、豊かな資源、風土など）と“活力”（＝産業、雇用、交流など）によって、暮らし良さと魅力を生み出していくことの意。それにより、若者や子ども、国民すべてが夢や希望を持って、元気に、活き活きと躍動することを示す。



圏域の将来像・圏域づくりの基本方針・協定に基づく具体的な取組

■全体像（体系図）



具体的な取組の概要について

生活機能の強化



分野	協定項目	具体的な取組の概要
ア.福祉	◆認知症に係る支援体制の整備	認知症の予防・早期発見のため、医療機関と連携して認知症診断のシステムづくりを行います。
	◆子育て支援体制の整備及び充実	倉吉市内で病児保育や休日保育等を実施し、市町間での子育て支援事業の連携を図ります。
イ.教育	◆鳥取県中部子ども支援センターの維持及び教育相談体制の充実	鳥取県中部子ども支援センターの機能を維持・拡充し、不登校児童・生徒の相談、受入等の学校復帰に向けた支援を行います。
	◆体育施設の機能の維持及び強化	倉吉市営陸上競技場の第3種公認を維持し、引き続き公認大会を開催します。また、圏域内にある体育施設での大会の開催、誘致等の利活用策を検討します。
ウ.産業振興	◆広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進	地域の観光資源を広域的にネットワーク化し、観光客の行動範囲の拡大に対応するとともに、訴求力の強化を図ります。
	◆企業誘致の推進	圏域への企業誘致を実現するため、圏域版の企業誘致パンフレットの作成をはじめ、ホームページ等を活用して、中部圏域の情報を提供します。

結びつきやネットワークの強化



分野	協定項目	具体的な取組の概要
ア.地域公共交通	◆公共交通に係る効率的な運行体系の確立	住民の重要な交通手段である路線バスを維持するため、路線の見直しや連携を図り、生活圏域内を結ぶ路線バスを中心とした効率的な公共交通ネットワークを確立します。
イ.地産地消	◆地産地消の推進	圏域の生産者、事業者、消費者等の食に関する関係者が、それぞれの役割を果たしつつ、相互に連携・共同して地産地消を推進します。
ウ.交流・移住	◆空き家バンクの連携等によるI・J・U（移住）の促進	都市部から田舎への移住を促進するため、「田舎暮らし体験プログラムの実施」、「ホームページ等によるPR」等の取組を行い、圏域への移住の促進を図ります。
エ.その他の連携	◆広報活動の連携による広域的な情報提供	圏域の広報紙、ホームページ等の広報媒体を活用し、圏域内外の住民に圏域の情報を提供します。また、ケーブルテレビを活用して、圏域情報の提供と情報の共有化に努めます。

圏域マネジメント能力の強化



分野	協定項目	具体的な取組の概要
ア.人材の育成	◆合同研修会の開催	圏域のマネジメント能力の強化を図るため、合同研修会の開催、外部の専門人材の活用、人事交流を実施します。
イ.外部からの人材の確保	◆専門人材の確保及び活用	
ウ.圏域内市町の職員等の交流	◆圏域内市町の職員等の交流	

※現段階では上記の13項目で、内容は各市町によって異なります。

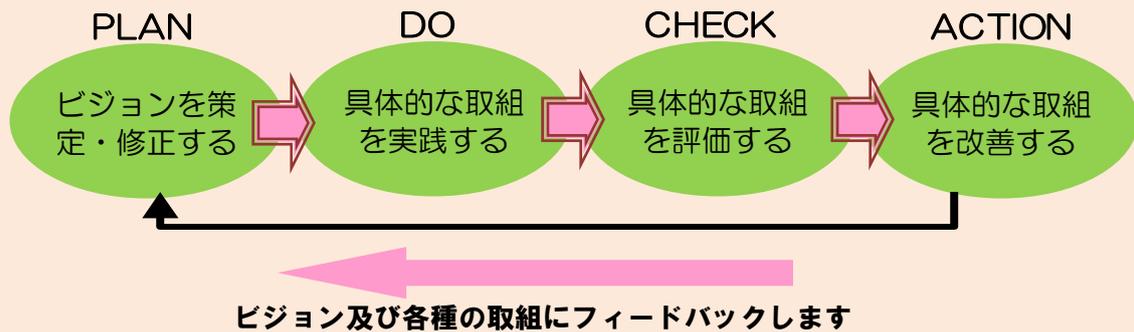
鳥取県中部定住自立圏共生ビジョンの「これから」について

今後の課題について

ビジョンを策定する過程において、定住自立圏共生ビジョン懇談会やパブリックコメント、若者ヒアリング等を通じて、住民の皆様から数多くの御意見をいただきました。

このビジョンは、必要に応じて内容の見直しを行っていきます。今回、ビジョンに反映できなかった重要な意見等については、今後の検討課題として管理し、引き続き、具体的な実現方法等の検討を行っていきます。

皆様からの御意見がより良い圏域づくりに反映されるように、これからも取り組んでいきます。



■今後、検討していくべき課題の分野（協定項目）など

<p>(1) 生活機能の強化に関する主な検討課題</p> <ul style="list-style-type: none">【医療】・救急医療体制の充実 ・地域医療体制の充実【福祉】・福祉サービスの充実【教育】・体育施設等の教育施設の機能の維持及び相互利用の促進 ・教育環境の整備・充実【産業】・産業基盤の強化・充実【環境】・環境保全の推進	<p>(2) 結びつきやネットワークの強化に関する主な検討課題</p> <ul style="list-style-type: none">【地域公共交通】・交通ネットワーク体制の整備・充実【ICT インフラ整備】・ICT利活用の推進【道路ネットワーク】・道路ネットワークの構築【交流・移住】・交流による賑わいの創出づくり【その他の連携】・圏域情報の発信
	<p>(3) 圏域マネジメント能力の強化に関する主な検討課題</p> <ul style="list-style-type: none">【その他の連携】・圏域内の人材育成と活用による地域力の向上



～ 本件に関するお問い合わせ ～

受付窓口：倉吉市 総合政策室

〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町 722
TEL≫ 0858-22-8161 FAX≫ 0858-22-8144
e-mail≫ kikaku@city.kurayoshi.lg.jp
ホームページアドレス≫ <http://www.city.kurayoshi.lg.jp/>